

東日本大震災に

学び伝える

**震災の記憶を記録し、
一人ひとりが正しく後世に伝え続ける。**

宮城県は過去様々な災害に見舞われ、その度に対策を重ねてきました。しかし、巨大広域災害となった東日本大震災には十分ではありませんでした。

『二度と同じ悲劇を繰り返してはならない。』

宮城県では、3月11日を「みやぎ鎮魂の日」と決めました。震災の犠牲者に対する追悼の意を表し、記憶を風化させず後世に伝え、東日本大震災からの復興を誓う日として。

3月11日を迎えるたび、私たちは被災地で起きた出来事を振り返り、東日本大震災が、いつかどこかであった「ひとごと」ではなく、今ここで起こり得る「わがこと」であることを自覚しながら、しっかりと未来へつないでいく必要があるのです。

将来にわたり被害を最小化していくために。
そして、未曾有の大災害を生き延びた者の『使命』として。



東日本大震災 宮城の記録

宮城県及び県内市町村の東日本大震災に関する取組みの記録を取りまとめたものです。

宮城県で発行した検証記録誌のほか、県の各部局や県内市町村で発行された記録誌等をご覧することができます。

[詳しくはこちらから](#)



[県発行記録誌]

- ①東日本大震災～宮城県の発災後1年間の災害対応の記録とその検証～(H27.3月)
- ②東日本大震災～宮城県の6か月間の災害対応とその検証～(H24.3月) ※写真左
- ③東日本大震災(続編)～宮城県の発災6か月後から半年間の災害対応とその検証～(H25.3月) ※写真中
- ④東日本大震災～宮城県の記録～(DVD)(H25.3月) ※写真右



① ②③④

東日本大震災アーカイブ宮城 ～未来へ伝える記憶と記録～

宮城県と県内35市町村が連携・協力し、県及び市町村の行政資料(災害対策本部や避難所運営に関する資料等)、県内小・中・高等学校で作成した記録誌、その他活動団体等の活動状況に関する記録や写真、県内各地域における被災状況の写真や映像などの震災関連資料約31万7千件をweb上で公開しています。

[詳しくはこちらから](#)



震災遺構の保存、語り部活動等

宮城県内では、震災の記憶の風化を防止するため、そして後世へ伝えるため、被災建造物を震災遺構として保存する取組みや語り部による被災体験を語り継ぐ取組みなどが行われています。

[詳しくはこちらから](#)

